

○本県では近江米のブランド力強化や琵琶湖の保全に資する取組として、オーガニック栽培の取組拡大を図っている。

○水稲オーガニック栽培では、除草効果が不安定なため収量が低く、取組面積の拡大が進んでいない。

○そこで、除草技術の現地実証ほを設置し、機械除草を中心に複数回代かき、深水管理、米糠散布を組み合わせることで除草効果の安定を図り、水稲オーガニック栽培の取組拡大に取り組んだ。

## 具体的な成果

## 普及指導員の活動

### 除草技術の現地実証

■①複数回代かき、②米糠散布、③機械除草、④深水管理の除草技術に取り組み、その結果、除草効果が安定し、単収420kg/10a以上が実証できた。

■また、実証技術を研修会等で周知を図り、新規取組7戸に機械除草技術を導入することができた。

平成30年度  
 ■除草技術の**実証ほを県内3カ所に設置**  
 ■**実演会(6回)**や**現地研修会(1回)**、**技術研修会(1回)**を開催



機械除草実演会

令和元年度  
 ■除草技術の**実証ほを県内3カ所に設置**  
 ■**実演会(6回)**や**技術研修会(1回)**を開催



水稲オーガニック栽培技術研修会

令和2年度  
 ■除草技術の実証ほを**県内3カ所に設置**  
 ■**実演会(3カ所)**や**技術研修会(1回)**を開催  
 ■水稲オーガニック栽培マニュアルを作成



①複数回代かき



②米糠散布



③機械除草



④深水管理

## 普及指導員だからできたこと

### 機械除草技術の取組生産者と技術導入面積の拡大

■機械除草技術に取り組むために新規に乗用除草機を導入した生産者7戸に対して、機械除草技術の導入をすすめ、取組面積32haの拡大を図った。

・**実証農家や除草機メーカー等と連携し、実証ほを設置し、機械除草の実演会で効果を実証できた。農家自ら実証技術の効果を確認**することで技術導入を進めることができた。

・**行政と連携し、補助事業等の活用を農家へ提案し、機械除草の導入を進めることにつながった。**

## 水稲オーガニック栽培の安定生産

活動期間：平成30～令和2年度

### 1. 取組の背景

本県では近江米のブランド力強化や琵琶湖の保全に資する取組として、化学合成農薬や化学肥料を使用しないオーガニック栽培の取組拡大を図っているが、除草効果が不安定なため収量が低い課題があった。

そこで、水稲オーガニック栽培の減収の主な原因である雑草対策について、機械除草技術の現地実証ほを設置し、複数回代かき、深水管理、米糠散布を組み合わせて除草効果の安定を図り、本除草技術の導入に取り組んだ。

### 2. 活動内容（詳細）

#### (1) 実証ほの設置

機械除草、複数回代かき、深水管理、米糠散布の除草効果を実証するため、県内3ヵ所に実証ほを設置した。各実証ほでは、乗用除草機による機械除草の実演会を行い、機械除草を行うタイミングや除草機の調整方法について実演し、除草効果を実感してもらうことができた（15回、延べ270人）。



現地実証ほで開催した機械除草実演会

#### (2) 研修会の開催および技術導入支援

技術の普及を図るため、県内の水稲オーガニック栽培取組農家や栽培希望農家、JA営農指導員や普及指導員等を対象に水稲オーガニック栽培技術研修会を開催した。研修会では除草技術のポイントや現地実証の成果を紹介し、技術導入を進めた（3回、延べ300人）。

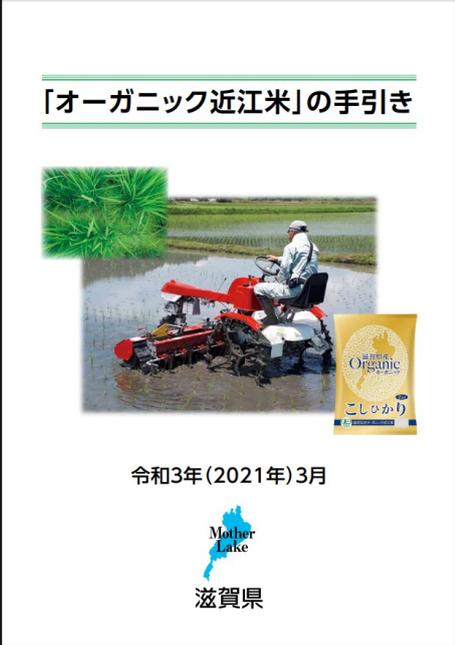


水稲オーガニック栽培技術研修会で現地実証ほの除草技術を紹介

### 3. 具体的な成果（詳細）

水稲オーガニック栽培の雑草対策として機械除草を中心に複数回代かき、深水管理、米糠散布に取り組んだ実証ほでは、除草効果を実証でき、収量は430～450 kg/10 aを確保することができた。これら、実証技術をまとめ、「オーガニック近江米の手引き」を新たに作成し、水稲オーガニック栽培の技術普及に活用することができた。

また、実証ほの成果を技術研修会等で周知し、研修会後のアンケート調査では、オーガニック栽培に取り組みたい生産者が新たに現れ、機械除草に取り組むため7戸の生産者が乗用除草機を導入するなど、確実に水稲オーガニック栽培の取り組みが広がっている。



**「オーガニック近江米」の手引き**

令和3年(2021年)3月

Mother Lake  
滋賀県

水稲オーガニック栽培技術体系の概要

化学合成農薬や化学肥料に頼らない水稲のオーガニック栽培では、もって雑草対策や病害虫対策、有機物の施用をどうするか十分考えた上で取り組む必要があります。また、個々の技術を実践するだけでは除草効果や病害虫抑制効果が不十分であることから、**複数の技術を組み合わせることで効果のポイントとなります。**

以下に水稲オーガニック栽培の技術体系と栽培こよみを紹介します。  
各技術の詳細は各巻をご覧ください。

育苗

- ・温床種子消毒
- ・中苗～成苗育苗

ポイント①  
雑草育成



温床種子消毒

ポイント②  
雑草対策



複数回代かき

代かき・移植

- ・施肥
- ・複数回代かき
- ・中苗～成苗移植

ポイント①  
雑草対策



米ぬかベレット

ポイント②  
雑草対策



米ぬか散布

雑草対策

- ・米ぬか散布
- ・機械除草
- ・深水管理

ポイント①  
雑草対策



移植 (中苗～成苗)

ポイント②  
雑草対策



米ぬか散布

その他畑管理

- ・病害虫防除
- ・施肥

ポイント③  
病害虫対策



(甘い除草剤)

ポイント④  
病害虫対策



機械除草

収穫

— 1 —

現地実証ほの除草技術をまとめたマニュアル

### 4. 農家等からの評価・コメント（東近江市 B氏）

現地実証により機械除草の除草効果を実感できた。また、複数回代かきや深水管理、米糠散布でさらに雑草を減らすことができた。技術マニュアルも除草のための技術ポイントがまとめられており、参考にして取組を拡げたい。

### 5. 普及指導員のコメント（滋賀県農業技術振興センター 主幹 中橋富久）

水稲オーガニック栽培は生産者個々の経験と工夫で取り組まれてきたが、機械除草を中心とした除草対策の基本技術を実証し、マニュアルにすることで新たな生産者が取り組みやすくなった。また、研修会等で広く周知するとともに、乗用除草機の補助事業等の活用を提案することで、技術の普及につなげることができた。

### 6. 現状・今後の展開等

研修会等のアンケート調査では19名の生産者が水稲オーガニック栽培の取組を志向していることから、引き続き個別指導や現地研修会等を開催し、機械除草を中心とした除草技術の導入による水稲オーガニック栽培の安定生産を支援し、取組面積の拡大を図っていく。

- 2 -